

第九拾八号

有田焼大型ひな人形 ギネス申請へ

今年12月に、待望の有田焼大型ひな人形7段飾りが完成します。

有田ではヤマトク窯としん窯が手をあげて、約3年をかけて果敢に取り組みました。一足先にヤマトク窯が完成して、11月中旬頃にナゴヤドームで開催されたドームやきものワールド2007で初公開をしています。来年2月に東京ドーム、続いて玉川高島屋展でも公開されます。値段はお互いつけようがないと悩んでいます。さて、お客様がどのような評価をして下さるか今から楽しみです。

しん窯の大型ひな人形は、来年2月4日(月)より3月9日(日)まで、第4回有田ひなのやきものまつりのメインとして有田館(有田町幸平 0955-41-1300)に展示されます。また、ギネス・ワールド・レコーズ社に申請中で、もし認定されると夢のようなおまつりになるでしょう。

また、姉妹都市提携のマイセン窯も呼応して、マイセン焼ひな人形を作成したい旨の情報を得ました。

98号を迎えて

来月99(白寿)号、再来月(2008(平成20)年1月25日)に100(百寿)号を発刊します。8年前、インターネット配信を意識して、しん窯からやきもの文化産業の一部を紹介して有田の元気を全世界へ発信できれば、と大きな夢を持って拙文をこつこつと書き綴ってきました。13号までは職人さんの手づくりでしたが、14号からいきなり私へお鉢が回ってきました。私は軽いノリでエッセー風に毎月ほんの少し情報が伝えられれば良いと願って引き受けました。そして再来月で100号という節目を迎えます。8年数ヶ月、私にとって100号は通過点かもしれませんが、感無量です。自己満足の瓦版ですが、読者の方からのメールは大きな励みになります。8年前と比べて、有田焼業界も様変わりしました。最盛期の3分の1、4分の1とも言われております。同じ頃スタートした福岡県出身の経営者タマホームの社長玉木康裕氏は、98年6月にわずか4名だった従業員を、07年9月現在2,600名の大企業へ急成長なさいました。同じ九州男児として、職種は違っても学ぶべき点は大いにあると思います。いつか直にお会いして、薫陶を受け、有田再生のヒントをいただけたらと切望しています。

(さぎん情報クラブ リンクス より一部引用)

来年の有田焼フェアに向けて

来年開催の第10回器フェスティバル有田焼フェア in 日本橋三越本店の最終打ち合わせのため、中谷バイヤーが来有されました。2泊3日精力的に歩き回られ、企画書をまとめられるそうです。

有田側からは、専門店として商社のショッパ展開を一部提案しました。10回という節目にふさわしい、有田の伝統と格調そして若い息吹を感じられる清新なフェアになれば、と有田へ熱いラブコールを送って下さいました。お声がかかるうちに有田の底力を有田の総力をあげて発信しなければいけないと思います。まとまりに欠ける有田の現状を嘆いている場合ではないのです。テーマは「有田の歴史に学ぶ～柴コレに倣う～」が良いと思いました。

陽気・積極的・前向き・プラス志向

人生成功のコツとして陽気・積極的・前向き・プラス志向を心得ています。これは、経営コンサルタントとして成功を収めている船井総研会長船井幸雄先生の教えです。

しかし最近是有田焼業界の低迷で、何とか底離れしようとあがきもがいていますが、結果が出ません。気が付いたら、30年もお付き合いをした熟練工の職人さん達をリストラしたりして、毎日身をそがれる思いをしながらため息ばかりついていました。そこで、女房と愛犬マルと裏山を散策して森林浴で気分転換をして、再びやる気を喚起しています。座して死を待つような業界では後輩達に申し訳ないと思い、非常識に挑戦したりツイている人や輝いている人へアタックしたりして、勇気ややる気をいただいています。自主自律、自助努力が企業の当たり前前姿ですので、ピンチはチャンスと自分に言い聞かせて前へ前へと進んでいる今日この頃です。

職人さんのひとりごと

～第14回・秋永宗範さん～

今年の6月に入社しあっという間に半年が過ぎました。

平日の昼間は細工場での生地成形や仕上げ、夜は有田工業高校でロク口の稽古、週末には陶芸教室やロク口体験の講師として、技術的な面だけでなく人として学ぶべき事も多く、忙しくも充実した毎日を過ごしています。

まだまだ未熟ではありますが、早く一人前の職人になれるように、これからも日々精進していきたくと思います。

